



## レビー小体型認知症について

医師 大神 博央

今回はレビー小体型認知症をご紹介します。  
認知症の種類では、血管性認知症に次いで3番目に多いと言われていたのですが、その詳細ははっきり知らない方も多いのではないのでしょうか。

2017年に、国際ワークショップでの診断基準の改定もありましたので 紹介させていただきます。まずその特徴としては、

誘因のないパーキンソニズム  
関節が固くなったり、動作が緩慢になったりします。



認知機能(注意・集中)の変動  
初期からみられます。ぼうっとした状態と比較的はっきりした状態が交互に出現します。

繰り返し出現する具体的な幻視  
典型的な幻視は「人物や小動物が家の中に入ってくる」というもので、「知らない子どもが部屋の中に座っている」などと表現されます。



レム期睡眠行動異常症  
これが今回の診断基準の改定で重要度が高くなった症状です。  
夜間睡眠時に悪夢を伴う大声や体動を示します。夢で見た精神活動が行動面に表出され、寝言、叫び、時にベッドから飛び出すような激しい異常行動がみられます。発症の10～50年前から起こるといわれています。

他の特徴としましては、前駆症状として抑うつがみられることがあり、うつ病と誤診されることがあります。またアルツハイマー型認知症と比べて注意障害や構成障害、視空間障害などの前頭葉・頭頂葉機能障害に由来する症状が初期からみられます。自律神経症状も初期から認められ、尿失禁や便秘、起立性低血圧がしばしばみられます。

## 新人紹介

東1病棟 看護補助 渡邊 由基

私は、今年の10月から看護助手として勤務している渡邊由基と申します。大学卒業後、福岡での営業の仕事をしていましたが、地元日田に戻り、看護師という夢に向け日々努めています。最近、ようやく仕事に慣れてきましたが、まだまだわからないことばかりで、毎日先輩方に指導をして頂いており、勉強の毎日です。

私の母も現在看護師で、父は以前まで上野公園病院で看護師として勤めていました。父や母のような看護師になりたいと思っています。その為に、今、私が毎日している仕事一つ一つに真剣に取り組み、積極的に勉強したり質問することを心掛けていきます。まずは、来年から准看学校に行く予定ですので、一步步夢に向かって努力していきます。

私は、昔から年齢問わず、人と接する事が大好きです。上野公園病院の患者様はお年寄りの方が多いため、常日頃から、対話を通じて相手の立場を尊重することを心掛けています。色々な経験を積み重ねてきている方ばかりなので、私自身とても勉強になりますし、患者様と会話をすることが、毎日とても楽しみです。まだまだ技術的にも精神的にも未熟ではありますが、患者様と先輩方から指導を受け毎日成長できるよう努力していきます。



医療法人百花会 上野公園病院

通所リハビリ ふきのとう  
居宅介護支援センターうえの

ホームページアドレス  
<http://www.uenokoen-hospital.jp/>  
E-mail  
uenokoen-hp@qiga.ocn.ne.jp

## 作業療法だより

毎年恒例のさつまいもの収穫は、病棟によっては風邪症状の患者さんが数名いたこともあり、今年は各病棟で別々に行いました。芋ほりが始まると、一緒に掘っている方々や私と「こげん大きいのがはいちよったばい」「まあ、すげえね」「これはなかなかとれんばい、あんたが掘ってくれない」など、会話も弾み笑顔いっぱい収穫の喜びを分かち合いました。収穫したさつまいもは、おやつの時間にやきいもにして患者さん方でおいしくいただきました。



また、東2病棟では創作活動で大きい雪だるまを花紙で製作しました。患者さん方と花紙で花を地道に作っていましたが、はじめは何を作っているか想像できない様子で「これで何を作るつかい?」と言われる方もいました。徐々に出来上がっていくと、「だるまさんやね」と言われ、創作意欲も湧き、完成させるのを楽しみながら、みなさんで作りました。帽子を被せたり、マフラーをつけたり、手や足をつけたり、かわいいサンタクロースの雪だるまが完成しました。完成して病棟へ飾ったときには、数名の患者さんと拍手をして「すばらしいのができた」とみんな喜びました。

今後も喜びを分かち合えるような作業療法活動を計画していきたいと思っています。